

世界の著名な特許にみる ————— 第40回

世紀の発明事業列伝

〈その思いつきが、時代を動かす〉

藤岡市助 その10 東京の電気鉄道事業のはじまり

電気鉄道期成同盟と東京での敷設運動

東京市内初の商業電気鉄道「東京電車鉄道」

「東京市街鉄道」の設立

国内初の電気事業コンサル「藤岡電気事務所」

第4次洋行と欧米電気事情視察

幻の私鉄・東京～大阪間高速電鉄「日本電気鉄道」構想

中国地方初の電気鉄道「岩国電気軌道」・小瀬川水力電気会社

電気盗用事件（刑法245条）



芸術・科学・知財クリエイター・弁理士（雅号）

大樹 七海

はじめに

「日本の電気の父」と称される藤岡市助は、電力事業や電球製造と並んで、電気鉄道の実現を重要な事業構想として位置づけていました。藤岡市助は明治21年、東京府に日本初となる電気鉄道の敷設許可願を提出しましたが、当時は時期尚早として受け入れられませんでした。

そこで藤岡市助は、明治23年の「第3回国勧業博覧会」で日本初の電車運転デモンストラクションを行い、電気鉄道の有用性を世論に訴えました。また、立川勇次郎・雨宮敬次郎ら実業界の協力者とともに「電気鉄道規

成同盟会」を組織し、電気鉄道の実現に向けた働きかけを強めていきました。

こうした努力のさなか、明治27年には日本初の電気鉄道として京都電気鉄道が敷設認可を受け、藤岡市助もその実現に協力しました。続いて、明治32年には京浜電鉄の前身である大師電気鉄道（立川勇次郎）、同年の阪神電鉄、明治33年の小田原電気鉄道、明治35年の江ノ島電鉄が次々と誕生し、藤岡市助が支援してきた電気鉄道の流れは全国へ広がっていきました。

そして本号では、藤岡市助が長年の宿願としてきた首都・東京での電気鉄道敷設、さらに東海道新幹線開業より57年も早く構想され